

令和6年度第2回総合教育会議 要旨

1	日 時	令和6年8月29日（木）午後1時30分から午後2時30分まで			
2	場 所	本庁舎2階 庁議室			
3	出 席 者	【委員】	【事務局等】		
		郡山市長	品川 萬里	政策開発部長	相楽 靖久
		教育長	小野 義明	政策開発部次長兼課長	宗形 敏広
		教育長職務代理者	藤田 浩志	教育総務部長	山内 憲
		教育委員	阿部 亜巳	学校教育部長	二瓶 元嘉
		教育委員	田中 里香	総合教育支援センター所長	石井 研也
		教育委員	見越 大樹	教育研修センター所長	吉田 圭輔
		教育委員	佐々木 貞子	学校教育推進課長	日下 明彦
				学校管理課長	遠藤 修
4	内 容	議 題 （1）全国学力・学習状況調査結果について （2）児童の健康教育について （3）報告事項：教育振興基本計画策定の進捗について （4）教育に関する諸課題について			
5	議事内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">1 開 会</div> <p>○政策開発部次長 令和6年度第2回郡山市総合教育会議を始めます。なお、本会議は郡山市公式 Youtube チャンネルにおいて動画配信により公開しておりますので御承知置き願います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">2 市長あいさつ</div> <p>○品川市長 本日は、「全国学力・学習状況調査結果」、「児童の健康教育について」、「報告事項：教育振興基本計画策定の進捗について」、「教育に関する諸課題について」の4項目あり、要点を説明いただいてから議論に移りたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">3 議題 （1）全国学力・学習状況調査結果について</div> <p>（学校教育推進課長から説明）</p> <p>○学校教育推進課長</p>			

今年度は、教科の調査、いわゆるテストについては答案用紙への記述方式、学習状況等を訊ねる調査はタブレット端末による回答で実施されたが、特に問題は生じなかった。

本市小学生の各教科の平均正答率は、全国平均と比べて国語はほぼ同程度、算数は3.4ポイント下回った。県と比較すると、国語はやや上回り、算数はほぼ同じ正答率になった。中学生は、全国平均と比べて国語はほぼ同じ、数学は1.5ポイント下回った。県と比べるといずれも上回っており、特に数学は3ポイント上回る結果となった。

中学3年生においては、小学6年生時から比較すると、全国との差が縮まっている。各学校の研修主任が参加する新学力向上支援事業全体会議等で、中学校区ごとに課題を共有し、小学校と中学校で連携を強化し、重点を絞った指導を展開していることにより、より改善が図られたものと捉えている。

また本市においてはロイロノートやスタディサプリの活用、教員研修の充実、学校図書館の図書整備、デジタル新聞の導入、全日・半日学校訪問の他に、学校の要望を受けての「学力向上のための学校訪問」を通じた授業改善などが学力調査の結果に反映していると考えている。

今後は何を学ぶのか、学ぶ目的・目標を明確にし、授業の終末には何が出来るようになったのかを確認しながら授業を展開し、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの転換が図れるよう支援していきたいと考えている。

○小野教育長

今回の結果を踏まえて、国語・算数・数学の設問や子どもたちの成長を踏まえた分析を行い、大切にしていかなければならない課題を校長会議において協議していきたい。また併せて、教育委員会で分析した結果について、学校ごとにそれぞれ分析していただき、2学期の授業改善につなげるよう進めていただいている。教育委員会としては、学校訪問を通して支援していきたいと考えている。

○品川市長

学力向上のために、教育委員会としてまた市として、どのようなことをやったらいいか提案いただければと思う。

高等教育である大学の立場から、両委員はいかがか。

○見越委員

大学生はパソコンを使いすぐ調べるが、その際にどの程度正しく活用されているのか、もっと活用するよう教育していかなければならないと思う。現状、その自発的な活用状況がどのようなものか確認したいところである。

○佐々木委員

現場の先生方は日々一生懸命やっている。1回のテストに一喜一憂しないで、毎日、目の前の児童生徒を細やかに見て励ましているということに誇りを持ちながら、ただ足りなかったところは授業でどう埋めていくか振り返りの時期が、先生方が一致団結する1番大事なところではな

いかと思う。点数が上か下かではなく、どこが足りなかったか、これを学んだら何ができるようになるのかということを見習いに伝えれば、おのずと知的好奇心が刺激されていくと思う。学校と保護者はともに子どもの大応援団なので、「次の試験は頑張ろうね」と明るく前向きに、次の試験は今回より1点でも2点でも伸びることが大事だと励ましてほしい。

○品川市長

石川県は全国で1番点数が高かったということか。

○小野教育長

小学校の国語は秋田県、算数は東京都がトップであったが、石川県は国語と数学のいずれも2位と上位だったため、参考として挙げた。

○品川市長

また来年同じ試験があり、去年より上がったか下がったかという議論になりがちだが、テストを受ける生徒が異なるため去年と今年を比べるのはあまり意味がなく、1人1人が伸びたのか伸びてないのか、それはどういうことで伸びたのかなどの経過観察的なフォローをすると個別のケアが出来るのではないか。

○小野教育長

子どもたち1人1人が昨年度と比較してどの程度伸びたのかという点については、毎年実施している福島県の学力学習状況調査があり、1人1人の伸びを追いかけることができ、併せて分析している。

○品川市長

教育委員会で児童生徒の向学心を高めていくにはどういうカリキュラムを組んだらいいのか議論いただければと思う。

○佐々木委員

例えば国が小学5年生位を目処に小学校の専門教科担任の確立を進めているのならば、郡山は4年生からやるというような郡山モデルや、算数の専門の先生が専門教科を教えるなど、教育委員会として現場の先生方をサポートすることも学力向上に繋がるものと考えます。

○阿部委員

算数と数学に着目すると、全国平均と郡山市を比べたときにどちらも若干その平均を下回ってはいるが、小学6年生時は3.4の差がついているところ、中学3年生では全国平均との差が1.5に縮まっている。これは、中学校になって数学が難しくなるということを踏まえると、ここでこれだけ全校平均との差を埋められたのは、先生方が相当研究されて、それを授業に生かされたのではないかと思われる。ここが突破口になるのではないかと思う。子どもが学校に通っている保護者の立場での希望は、ぜひ保護者を巻き込んだ形で1人1人に合わせた学習計画を立

てられると良いなと思う。学習計画を保護者との間で共有し、例えば、この学年の算数はこの部分でつまづきやすいとか、この分をスタディサプリやプリントでやってみようというような共有があると、家庭でのフォローもしやすくなると思う。ぜひ先生方の取組と家庭の連携を図っていただければと思う。

○品川市長

例えばそれぞれの教科で一番成績が良かった市や町がどの教科書や問題集を使っているかなど、教材の調査もお願いしたい。まずは県内から。それに必要な予算を組み、きちんと配当するようにしたい。

3 議題 (2) 児童の健康教育について

(学校管理課長から説明)

○学校管理課長

本市は、体づくり・生活習慣づくり・健康づくりの3本柱で「令和6年度体力向上推進構想」を掲げ、運動・遊びに親しみ、健康の増進と体力の向上を図り、子どもの健康日本一を目指し、PTA連合会をはじめ様々な機関と連携して取り組んでいく。

○品川市長

児童の健康教育について、各項目はそれぞれ関係があると思う。体育の授業の充実なり運動教育の習慣の確立にしろ、1番基礎にあるのがどれで、その上にある応用分野がどれかなど、構造化できないか。郡山市のフレームワークにおいて、体づくり・生活習慣づくり・健康づくりの3つの要素で効果的な相乗効果を出させるにはどうしたらいいか、その組み合わせも考える必要があると感じた。生徒の立場ではどうか。

○学校管理課長

3つの要素は相互に関連付けながら進めていくことが肝要と思う。体づくりについては、まずは授業を中心とした学校教育全体で計画を策定し、休み時間なども含めた体力向上を目指しているところである。やはり体育の授業の充実を中心として進めていくことが非常に重要と考えている。

○品川市長

田中委員、ドクターの立場ではどうか。

○田中委員

学校健診等で肥満を指摘された高度肥満のお子さんを診察し採血すると、肝機能障害や脂肪肝があり、子どもでもそういった変化がもう出てきていることを考えると、生活習慣がいかにか大事かというのが身にしみる。生活習慣病は子どもでも起こりうるので、食育は親にも教育していかねばならない部分があると思う。一方で、特に女子が思春期になる

とコマーシャルやモデルなどを見て、痩せたいと極端に食事制限をする方もいるが、将来的に低出生体重児を産む場合がある。その生まれた子どもが将来、生活習慣病や高血圧等を発症することがデータとして出ている。そういった将来的なことも踏まえて、極端な痩せに対する予防もしなければいけない。

また歯科検診について、他科に比べて歯科は後回しにされがちであり症状が出ないと行かないことが多いが、永久歯がボロボロになるとその後はないため、将来的にはとても大切である。校医をやっている歯科の先生から聞いたことがあるが、小学生でも検診をすると歯がボロボロで永久歯があまり残っていない子どもも見られるという。将来的に歯周病の原因になり、歯が無いことできちっと噛めないなど栄養状態の問題にもなってくるので、症状が出る前に予防することがとても大事だと思っている。歯科検診の意識を高めてほしい。

また給食費について、物価高の中で予算内にやりくりするために、どんな工夫をされているのか教えていただければと思う。

○学校管理課長

本市の児童の肥満の状況について、小学1年生の男子については昨年度より減少しており、県平均よりは若干低い状況である。また小学1年生の女子については、昨年度より上昇しているが、県平均よりも低い状況である。中学生の男子は上昇傾向にあり県平均よりもやや高く、課題になっている。コロナ禍が明けて、運動不足が影響しているところもある。小学1年生の女子についても県平均より低い状況であり、一定の取組の成果は出ていると思うが、やはり各家庭の協力による運動と食育が非常に重要な両輪となっているので、家庭への意識づけについて学校教育を通して働きかけの工夫をしているところである。

歯科検診の状況については、全国平均より若干高いものの平均に近づいており、毎年改善傾向にある。虫歯は治療で元に戻るものではなく、やはり予防が重要になってくるので、特に学級活動での歯科指導・ブラッシング指導を中心に取り組んでいる。その中で減少傾向にあるため一定の効果が出ているものと捉えており、専門家の学校歯科医の皆様から意見をいただきながら、今後も進めていきたい。

○学校教育部長

給食費について、物価高騰等に合わせて一食の食材費の値段は少しずつ上げ、全額公費で負担しているところである。今年度の米については昨年末に入札方式を実施し、例年より非常に安い金額でJ Aから供給していただくようになった。今年度も米については入札方式を予定している。今世間では米不足が問題となっているが、学校給食については、9月位までは2023年度の米を出し、10月以降は2024年度の米を出す契

約となっており、子どもの給食については安定して安全・安心な米が供給されることになっている。

○品川市長

資料の一番下に組織図があるが、坪井先生が医師会会長になられたので、今までとはまた違った形で積極的な活動を展開されていくと伺っている。福島県全体として血圧が高く、最下位に近い。糖尿も肝硬変も福島県全体としてはあまり高くないが、福島県第三次健康ふくしま計画重点スローガンの「減塩・禁煙・脱肥満」とうまくシンクロさせ、健康教育について体系化したいと思う。第三次健康ふくしま計画も活用する形で、児童生徒の健康教育について進めていきたい。

○藤田教育長職務代理者

1つの物事をバラバラにやるのは非常に非効率であり、子どもたちに実感してもらおう形が大事。近くの小学校に農業指導に行く際に、野菜をプランターで育てる2年生の活動があるが、ただ育て方を教えるだけではなく、どういう風に食べたいかというところも含めて実施する。これが家庭科に繋がり、子どもたちが単に野菜を育てられて良かったということだけでなく、実際に食べるとしたらこんな栄養があってかつ美味しく、自分の好みに食べるためにどうすればいいかというような栄養的価値の視点までどんどん繋がっていくところもある。それをうまく算数等で利用し、今日ここでトマトとナスとキュウリがあるが、全体で集団を作って分けるといくつつあるかというような形で授業に利用し、全体的な形で食に興味を持ってもらうような工夫ができると思う。

さらに家庭を巻き込むという意味では、食糧問題の冊子を学校に配っているが、そういった中でサツマイモの収穫体験まで持っていき、さらに家庭に持ち帰ってその日にまず1本食べて味を確認し、3週間後に食べてどう味が変化するか御家庭で感想を言い合ってくださいと話をする。サツマイモは寝かせると甘くなり、3週間後に食べた方が甘いという経験をする。子どもたちは非常にびっくりして、親御さんとコミュニケーションを取る形になる。

既に郡山市内で様々な団体が実施している食育活動を学校内や家庭に上手にフィードバックすることによって、十分興味関心を引き出せると思う。ぜひ今、郡山市内で行っている食育活動を教育委員会でも整理して、こういったものが教育に使えるのではないかという形で活用すると良いのでは無いか。

○品川市長

一説によると食の感覚は3歳までで決まると言われており、ぜひこの健康教育の体系も、医師会や看護師会の医療の世界や栄養士とも考えて、次の総合教育会議で提案したい。

3 議題 (3) 郡山市教育振興基本計画策定の進捗状況について

(教育総務部長から報告)

○教育総務部長

郡山市教育振興基本計画の第3期が今年度で満了するとともに、国の「第4期教育振興基本計画」が策定されたことから、第4期の計画策定が必要となる。

計画策定においては、本市の「郡山市まちづくり基本指針(あすまちこおりやま)」の教育にかかる基本事項を踏まえつつ、教育委員会における最上位計画として体系的に整理していく。教育には様々な課題があるが、大きくは「ウェルビーイングの向上」と「持続可能な社会の創り手の育成」を重点目標としていく。

また、新計画策定のポイントとして、(1) 教育とウェルビーイングをテーマにしたウェビナーの開催と(2) 郡山ユースワークショップの実施を新規で設け、子どもを中心とした計画策定に取り組んでいく。

3 議題 (4) 教育に関する諸課題について

(記事概要について政策開発部次長から説明)

○品川市長

委員の日常生活あるいは仕事の中で、特に気になった問題があれば首長部局あるいは教育委員会で取り挙げさせていただきたく、御感想や御意見をいただければ。

○見越委員

2番の生成AIに関して、大学生が自発的に生成AIを利用して論文の要約をまとめてくることがあるが、中身の無い薄い内容が生成されることが大半なのが現状。ある程度知識があればそれが上辺だけのものと分かると思うが、小学校の低学年の生徒がやるとそれがそのまま正しいものと誤解してしまうことが懸念される。ある程度知識が溜まった段階で子どもたちに使ってもらうため、開始年齢を慎重に決めていかないといけないと思う。

○品川市長

大学では、生成AIで検索するのはもう始めているのか。

○見越委員

授業としては無いが、研究室で学生が自発的にチャットGPTなどを個人的に契約して使うというものはある。ただ、まだまだそう深い内容には手が届かないというのが現状である。

○品川市長

教室で、生成A Iで検索して議論することはあるのか。

○教育研修センター所長

昨年度は先生方に対して、挨拶文や英語の例文作成、算数の練習問題作成などにチャットG P Tを活用する生成A Iの公務での利活用について、一度学習会を行っている。本年度は、チャットG P Tの本を各学校に1冊ずつ配布し、活用を推奨している。

○品川市長

教育委員の皆様にも、その本を購入しお配りいただきたい。

○阿部委員

5番と6番が非常に繋がったテーマだと考えている。子どもへの性犯罪を防止するための日本版D B Sの法律が施行され、2026年に始まる予定だが、社会の側がその被害を防止するという取組も勿論重要だが、6番について子どもたちの側で万が一そういう被害にあったときに声を上げられる知識や心構えの教育というのも、今後非常に重要になってくると思う。近年、小学生時代に受けた性被害について、30年後に裁判で訴えて賠償が認められた事案なども報道されている。問題は、その被害を受けたときに自分がされたことが性被害だということが分からず、何か違和感を覚えたとしても、それをどう誰に声をあげていいのかわからないということ。年齢が低ければ低いほどそういう問題に直面してしまう。年齢に応じて保健体育で人の体について学ぶプログラムが組まれているが、やはり低年齢の頃から、例えば水着で覆われている部分に関しては他人には触らせてはいけない部分だとか、教育の工夫を今後益々していく必要があると考えている。

○品川市長

弁護士会では勉強会をするなどの動きはあったか。

○阿部委員

子どもの権利委員会でも非常に話題になっているが、本人からS O Sが出ないと周りは動きづらい。S O Sが出たときに子どもからどう聞き取るか専門的な聞き取りの仕方の研究、加害者の処罰や被害者のフォローといった体制は整いつつある。一番の問題は、肝心の本人のS O Sを拾えていないところ。その体制をどう構築していくか、今後非常に重要になると考えており、そういった議論が弁護士会でもなされている。

○品川市長

先日、郡山東高校の学園祭を見せていただいた。今の小中学生も高校生も、かなり前倒しでどんどん成長しており、もっと自主性を尊重していてもいいかと思う。自分たちはこうしたい、私たちはこうしたいか

		<p>らそのために条件整備をしてほしいという意識を非常に持って学業や部活に臨んでいる子どもたちに、学校教育も行政の様々なサポートも、もっと考えなければいけないのではないかと今回の行事で感じた。教育委員の皆様も色々感じていると思うので、立派に成長している児童生徒の可能性をどうやったらもっと伸ばしてあげることができるか、一緒に考えさせていただければと思う。</p> <p style="text-align: center;">4 閉会</p>
6	会議資料	(1) 第2回総合教育会議次第資料 2024.8.29